

ろいまた NEWS

ロイマとはニュージーランド先住民のマオリ族の間で愛と友情の絆を表すお守りの名前です。

第7号

【発行】 2007年7月20日

特定非営利活動法人あい・ぽーとステーション

〒106-0031 東京都港区西麻布 2-24-25-509

TEL 03-6657-8539 FAX 03-3499-8539

E-mail: station@ai-port.jp

URL: <http://www.ai-port.jp>

子育て・家族支援者養成講座事務局

浦安市 三級第二期支援者誕生

七月十八日(水)、浦安市子育て・家族支援者要請講座(三級)第二期の認定式が行われました。約二ヶ月間、毎週の授業とレポート提出、実習とハードなスケジュールを乗り越え、四十三名の新規受講生のうち認定者三十九名、準認定者一名、そして、第一期の単位履修者から認定者十六名、準認定者一名が誕生しました。認定式を迎え、皆さんとても晴れやかな笑顔で集まっているのが印象的で、お互いの頑張りを労って、和気藹々とした雰囲気会場を包んでいました。

会場には、浦安市からは松崎浦安市長はじめ、算次長や関係の皆様が、あい・ぽーとステーションからは大日向雅美代表理事、新澤誠治代表理事、汐見理事が出席し、にぎやかな顔ぶれで修了生の皆さんの認定を祝福しました。はじめに新澤代表から「この講座が浦安市と市

民、NPOが協働で開催されていることは意義深い。これから皆さんは浦安市の子育て支援を担っていただく一員になる。みんなで育てていくということは、素晴らしいことであるし、大いに期待したい。充実した講師陣の指導を受けたことは大変大きな力になる。この認定を受けられたことを誇りに思っ、これからの活動に励んでほしい」と激励がありました。汐見理事は、「追い込まれた社会の中で、お父さんも大変、孤立したお母さんも大変。そうした社会に切り込んでいくこの活動は、入り口は子育てだが、社会を温かく作り変えていくという取り組みである。浦安市が市を挙げてこの取り組みをしていることは画期的なことであると思う」と、この養成講座の意義と使命について述べました。松崎市長からは「皆さんのご努力にお礼と感謝を申し上げる。そして今回三名の男性の認定者がいることは同性として心強く思う。自分の子育ての反省も踏まえて、子育て支援に全力を尽くしたい。浦安市では六月から公立幼稚園三園で三歳児保育を実施している。この秋には二級講座も開催する予定。認定証を受け取ったここからがスタートだと思って活躍してほしい。十五万八千市民、一つの運命共同体として、みんなで高齢者や子どもを守っていく」という思いで、市政運営をしていきたい」と力強く今後の意気込みを述べられました。大日向代表は「受講生お一人お一人のレポートを拝見して、改めて地域には様々な人生を背負った人がいら

つしやると実感。浦安をとっても愛していて市に恩返しをしたい、市のために尽くしたい、と書かれた方が多くいらしたことに感銘した。私たち一人ひとりができることは小さい、でもどんな小さな一滴の雫でも、それが集まれば浦安が変わります、とも書かれていたこと、こうした声をたくさんレポートの中に書いてくださっていて、改めてこの養成講座をやらせていただけて感謝の気持ちでいっぱいである」と述べました。三級第二期生を迎えています。浦安市の雰囲気、改めて今後への希望が膨らむ充実した認定式となりました。



認定者一人一人が、汐見理事より認定証を授与され、全員で記念撮影を行いました。今後の活動に胸を躍らされている中、

何人かの方にお声を頂きました。

「感謝の気持ち」...

「価値観が変わった。お母さんたちが苦労していたということはある程度思っていたが、いろいろな勉強すると想像以上だったことが分かった。」

「いろいろな勉強させていただいた。感謝の思いでいっぱいです。」

「子育て経験はあったが、講座を受講したのは初めてだった。いろいろなお話を聴けて、自分の見る目も変わってきたと思う。子育てに悩んでいる方々のお手伝いが少しでもできるように活動し

ていきたいです。」

「大日向先生の熱意のこもった講座に感銘して、がんばって続けられた。講義も身近なことでも分かりやすかった。社会も変わり自分たちの時代の子育てとはずいぶん違ってきている。今まで子育て中の親を批判的な目で見てきたことを反省してサポートしてあげないといけないと思った。」

「レポートに何を書いたらいいのかなど最初は心配だったが、講義で今まで思ってもいなかったことをたくさん勉強して、筆が進み、身につくものも多かったと思う。」

「認定を受けて、感慨無量です。四歳の息子が元気でいてくれて、最後まで講座を頑張れた。お世話になっている浦安市に何か恩返しをしたいという気持ちと、最初の講義で大日向先生や汐見先生に励ましのお言葉を頂いたことが励みになった。大日向先生が受講生一人一人に書いてくださった講評にも感動し、ぜひ二級も受けてみたいと思っています。」

最後に松崎浦安市長から、「特に一期の方々が再受講して認定されたことがうれしい。講座の話も徐々に市内に広まってきた。今後ますます受講生が増えていくように努力したい。浦安市の地域の子育て力におおいに期待したい。」とエールを頂きました。

(伊藤・小貫)



浦安市第四回 バックアップ研修レポート

浦安市子育て・家族支援者養成講座修了生を対象にした第四回バックアップ研修が、六月二十七日(水)に三十三名の参加者のもと開催されました。隣では、三級第二期の養成講座も開催されていましたが、交通事情によるハプニングもあり、急遽、先輩である一期の修了生と後輩の受講生たちが一緒に机を並べ、講師の大日向雅美代表理事の研修兼講義を受ける形になりました。

テーマは最近のニュースから。「二〇〇六年の合計特殊出生率が一・三二に回復」と「政府による」子どもと家族を応援する日本「重点戦略検討会議の中間報告」を取り上げ、出生率の上昇傾向を統計上の誤差に終わらせず、これを維持していけるかどうか、それには少子化の原因となっている社会の生きづらさ、日本では第一子誕生後、七割の女性が仕事をやめているという現実、また父親が育児参加するためにも就労環境を改善することが必要であると述べました。そして、重点戦略検討会議が働き方の見直しによるワークライフバランスの実現や地域の子育て力のアップの推進を掲げていることに触れ、十数年の少子化対策を経て、行政がやっとツボをおさえた対策にたどりつき、企業、市民と一体になって取り組んでいこうという姿勢を見せたという解説でした。

かつて、汐見稔幸理事が浦安市の子育て・家族支援者養成講座が成功したら、子育て支援の

歴史に残る、と言ったことは決して大げさなことではない、社会を構造的に変えられるかどうか、出生率を上昇させていけるか、私たちの力が問われていることを理解して活動していただきたい、と修了生、受講生全員を激励。また、ワークライフバランスという考え方は長時間労働ではなく人間らしく過ごせる働き方であり、それは今までのようなものあふれた生活、必ずしも上昇志向の社会ではないかもしれないが、どこかで見極めをつけないといけないことであるなど、非常に内容の濃いお話でした。

その後、修了生を対象に「子育て支援の基本は」傾聴」をテーマにワークを交えながらの研修が続けられました。

「聴く」というのは耳で聞いて目で確かめて心にとんと落とす、それがいかに大事で難しいか、これを実感しないと言葉が一人歩きをしてしまふということ、早速二人ペアで、一人が話し、一人が傾聴するというワークを実感してみました。大日向代表は支援者の皆さんの傾聴の様子を観察して、共感性が高く身体がいい動きをしていてすばらしいと感心していました。相槌をどう打つか、相手の呼吸を感じながら「そう」「それで」と相手の先回りをせずうまく受けながら相手の体が前に出てくるとこちらの姿勢も前へというように自然に体が動く、相手もこの人なら私の話を聞いてくれるという気持ちになるそうです。

また、二人の支援者さんの間に境界線を引いてお互いに自分の領地に相手を誘い込むというワークでは、いくら言葉巧みに誘い合っても結局決着が付きませんでした。一つの案はお互いに交



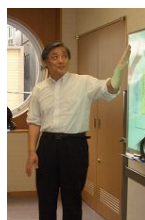
代すること、つまり自分の考えを守って相手だけ変えようというのはなかなか無理で、自分捨てて自分が変わることによって相手も変わる、相手の立場を尊重するということが大切という大日向代表の言葉に支援者さんたちは大きくうなずいていました。さらに支援する人は自分を知ることが大切、自分や相手のタイプを知り、時には意図的に自分を捨てなければ寄り添うことができないとの助言がありました。このワークは札幌の講座で講師を務めて下さった明治学院大学の井上孝代教授が、六月の臨床発達心理士研修で披露されたものだそうです。一時間半余り、和気藹々とした雰囲気の中、バックアップ研修が終了しました。(畑村)

千代田区第五回 バックアップ研修レポート

七月十一日(水)、第五回千代田区バックアップ研修が、九名の参加の下、行われました。

講師に(株)イーケア・サポート代表取締役の榎本三千雄氏をお招きし、「一時保育のリスクマネジメント」というテーマで、講義いただきました。今回は、やや難しい研修かと思いましたが、ひとつひとつ丁寧に、且つ、ユーモラスな話術で、充実した一時となりました。

リスクマネジメントとは、リスク(危険)を認知



(松本)



(予知)し、事前の対策を講じ、万が一事故が起きた時には、事故処理を適切・迅速に行う一連の流れのことです。「人はミスをする」ということが前提となり、ミスがあっても事故につながるという、信用を失わない方法・対策をとることが重要です。徹底して事故の原因を分析し、具体的な原因に行き当たる程、対策は立てやすくなることを理解しました。

また、リスクマネジメントは、問題意識を磨くことが非常に重要です。問題意識を持つことにより、仕事に経験と熟練がプラスされ、情報の共有が出来ますが、逆に、問題意識が不足することにより、単なる作業となってしまう、見落とし・間違い・取り違えが起きやすくなってしまうとのことでした。

この問題意識を高めるゲームとして、二つのグループに分かれて対抗戦を行いました。「ペットボトル」の利用法を二分三十秒の制限時間内にどれだけ挙げられるかという問題でしたが、水を入れて凍らせて保冷剤にする、漬物の重しにする、砂を入れて鉄アレイにする、切った植木鉢にする等、様々な解答が出され、両グループ共に合格点をいただくことが出来ました。発想を豊かにすることが大切であり、情報のアンテナを張り巡らしながら、共有、報告することが重要であるとお話いただき、皆さんは十分に納得された様子でした。

今回は緑いっぱいの子育てひろば「あい・ぽーと」の秘密をお伝えします。あい・ぽーとの園庭の緑は地域のたくさんの方の愛情と恵みがたつぷり注がれた「人にも生き物にも土にも優しい園芸活動」の賜物です。その一つの活動が「グリーンサポーター」の取り組みです。

グリーンサポーターは講師の川畑洋子さんを中心に活動しています。野菜だけでなく花も有機無農薬で栽培しています。

活動内容は、月に二回。作業の日、勉強の日を設けています。作業の日には午前中の都合の良いときに、園庭の植物の手入れをしたり、草取りなどを行い、勉強の日には、季節ごとの園芸作業のポイントを紹介したり、皆さんのご家庭などでの花や野菜の栽培やその利用に役立つ情報を紹介しています。地域に住まいの方、あい・ぽーとと会員の方、養成講座を受講された方など様々な方がこの取り組みに賛同し、参加して下さっています。

今年からはあい・ぽーとに遊びに来て頂いた方に野菜の収穫をして頂けるよう、キュウリやサニーレタス、ミニトマト、ピーマンなどの苗を植え

育てました。子どもたちはとても嬉

しそくに収穫し、大切に持って帰っています。参加者の方からは「植物に触れる機会がないので、作業を少しするだけでも気分がスカッとした」「普段は食べないサニーレタスやさやえんどうを子どもが食べられるようになった」などの声も聞かれました。講師の川畑さんも「大都会の真ん中の恵まれた環境の中で、いろんな方々と植物のことから身近なことまでいろいろなお話をしながら交流できることが楽しい。また、具体的に植物について学ぶということだけでなく、子ども達や参加された方が土や花に触れる楽しさや喜びを味わい、その体験を通して何かを感じ取ってもらえたら嬉しい」とおっしゃっています。

(あい・ぽーと保育士 石井)

川畑 洋子さん

恵泉女学院短期大学園芸生活学科卒業後、北海道スィスなどで農業研修。一九九三年〜二〇〇四年、恵泉女学院大学園芸実習助手。この間に、栽培における教育の意義について研究を続け、玉川大学教育学部卒業、明星大学大学院修士課程教育学専攻終了、同大学院博士課程中退。現在、あい・ぽーとでキッズ交流ガーデンのアシスタントを務める。一児の母。



私の関わっている「つむぎ」について

札幌事務局 後藤

「太平こどもの家」は、二十九年前に無認可の幼稚園として建てられました。当時は道路も途中で切れているような、札幌の北の果て太平の地でした。「建物は小さいけれど、太平全体が園舎です。小人数教育で子どもを真ん中に」との園長の言葉通り、地域の人々に愛されてきました。

しかし、園児が減少し、二〇〇〇年度をもって閉園することになりました。その時、卒園児の父母、地域の人たちから何か違う形で「こどもの家」を続けて欲しいとの声があり、立ち上がったのが現在の「太平こどもの家」です。週二回開放していますが、今回は火曜日、十時半から十五時まで行っている「子育てホットひろば」について紹介させていただきます。

子どもたちは自由にのびのびあそんでいます。水遊び、泥んこあそび、雪あそび、普段出来ないこともここでは禁止されることなくとんあそべるのです。「母親べつたりでちつとも離れないんです」おっしゃるお母さんの子どももしばらくすると離れてあそんでいます。民家が少し大きくなったような家庭的な造りがいいのでしょうか。(「えっ、こい教会？」とびっくりされますが、キリストの教会を借りています。)

親たちの様子はどうでしょう。子どもとあそぶ親、おしゃべりを楽しむ親たち、子どもが離れてあそぶ様子をコーヒーを飲みながら(インスタントですがセルフで飲めます)一人ぼーっと見ている方もいます。親たちの中にはこの瞬間が一番幸せ...とおっしゃる方がたくさんいます。日頃の家事、育児から解放されてほつと一息つける時間なのでしょう。「こは親も子もストレス発散の場」「実家に帰ったような暖かい雰囲気が好き」「ここに来ると「ダメ、ダメ！」を連発しない自分

がいる」などうれしい声を聞かせて下さっています。

そんな親子を見守るボランティアさんたちとは言え、豊かにされて帰って行く「私の手を取ってあそんでくれるのがうれしい。私でもいいんだ...と平安を得る」「こんな私でも必要とされているんだあとうれしくなる」とおっしゃいます。メンバーは幼稚園をしていた時の卒園児の親、退職した男性の方など三十代から八十代まで様々です。毎回、七、八名のボランティアが関わっています。「おはよう」と迎え、「またね」と見送る、そこに地域の大きな家族を感じます。

最後に一つ紹介したいプログラムがあります。「おしゃべりサロン」です。これは子育ての悩みや不安はもちろん、夫のこと、社会のことなど何でも自由に語り合える場です。一時間程の間子どもはボランティアが見守り保育をしますので、おとなだけの時間です。ファシリテートを札幌市子育て・家族支援者養成講座で講師を務めて下さった矢島満子さんが担って下さっています。何を話しても受け入れてもらえるという安心感があるのでしょうか。本音で話せる親たちの癒しの場のようです。「おしゃべりサロン」が終わった後の親たちの顔はどことなく解放されて明るく、いつもより元気になつて帰って行かれる姿はとても印象的です。

さて、ひろばは夏休みになりますが、親たちの自主運営で開放されます。また、OG・OBの会が発足するなど親たちが自主的な活動を展開しているのも頼もしい限りです。

親子が楽しく集う様子を見て、高齢者の方々から「太平おとなの家」を作りたい、との声が聞こえて来ます。赤ちゃんとからおはあちゃん、おじいちゃんまで、みんな一緒に楽しそつではありませんか...!

(皆さんからの「声のひろば」もお待ちしています。)



浦安市

第六回 バックアップ研修のお知らせ

第六回の浦安市 子育て・家族支援者養成講座受講修了生対象、バックアップ研修を左記の通り開催致します。

日時 平成十九年八月七日（火） 午前十時から十二時
場所 浦安市文化会館 中会議室

（保育室文化会館 第一練習室）

I. 「紙芝居おじさんのコツ伝授」

講師 井林 靖雄氏

（NPO法人あい・ぽーとステーション子育て・家族支援者）

II. 「活動状況報告及び課題解決に向けた助言」

講師 あい・ぽーとステーション代表理事 大日向 雅美

ご出席の方は七月三十一日（火）までに浦安市こども家庭課子育て係（TEL 0471-351111 FAX 0471-3041505）までお申込みください。

千代田区

第六回 バックアップ研修のお知らせ

第六回の千代田区 子育て・家族支援者養成講座受講修了生対象、バックアップ研修を左記の通り開催致します。

日時 平成十九年八月七日（火） 午後二時から三時三十分
場所 千代田区役所 四〇四号室

テーマ 「カウンセリングマインドについてのワーク

・事例検討」

講師 あい・ぽーとステーション代表理事 大日向 雅美

ご出席の方は七月三十一日（火）までにあい・ぽーとステーション事務局（TEL 03-6657-8539）までお申込みください。



おしらせコーナー



ろいまた第6号でご紹介した住友生命『未来を築く子育てプロジェクト』では、他にも面白い企画に取り組んでいらっしゃいます。皆さんもぜひチャレンジしてみたいはいかがでしょうか。

エッセイ・コンクール

＜趣旨＞ 子育て・子育てにまつわるエッセイを幅広く募集します。子どもが社会性を習得し自立するため、地域社会と共生した子育て、夫婦・祖父母など家族の協力による子育てなどの創意工夫のある事例を紹介します。子育ての苦労を乗り越え、子どもが自立していく過程で、周囲が得る気づきや喜びなどの「子育てのすばらしさ」を伝えていきます。

＜募集対象＞ 「子育て・子育て」にまつわるエッセイを、年齢・性別などの制限はなく、幅広く募集します。

子育て支援活動の表彰

＜趣旨＞ より良い子育て環境づくりに取り組む個人・団体を募集します。各地域の参考になる特長的な子育て支援活動を社会に広く紹介し、他地域への普及を促すことで、子育て環境を整備し、子育て不安を払拭します。

＜募集対象＞ より良い子育て環境づくりに資する活動を行い、成果を上げている個人・団体（規模は問いません）

詳細は www.sumitomolife.co.jp/child でご覧になれます。

NEW

日頃はあい・ぽーとで受付業務を担当しておりますが、7月からお手伝いをさせて頂くことになりました。皆さんと共に、一歩ずつ成長していきたいと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

松本 春美

NEW

あい・ぽーとでお手伝いをさせて頂くようになり二ヶ月余り。優しく温かいスタッフの皆様のおかげで毎日常。今後はたくさんの支援者の皆様方との素敵な出会いを大切に、楽しみに過ごしていきたいと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。

佐藤 朋香

新事務局スタッフ紹介

NEW

講座などですすでにお目にかかっている方もいるかと思いますが、6月下旬からあい・ぽーとでお世話になっています。「知らないおじさんだなあ・・・」と、こどもたちからの不思議な目線を感じますが、保育士でもあり一時保育の「あおば」にも週1回入っています。講座や西麻布の事務所とあい・ぽーとを行き来する毎日ですが、がんばります。これから、いろいろよろしくお願い申し上げます。

伊藤 大悟

講座終了に伴い、増えていく認定者が、それぞれの地域で気持ちよく活動できますよう、より充実した事務局体制でサポートさせていただきます。（榎本）

「ひろば」の畑のじゃがいもの花がきれいです。おいもすすく！子どもすすく！（後藤）

北海道でも海開きがされました。いよいよ夏本番。海に山に川に、子どもたちは大忙しですね。私も負けずに遊びます。（美馬）

小貫のマタニティー奮闘記(2)

現在8ヶ月。産休・育休をいただく予定で、現在、新事務局スタッフに仕事の引継ぎ中。正直、私は子育てをしながら仕事復帰できるのか、悩みました。葛藤や迷いがすべて払拭できたわけではありませんが、浦安市の認定式に出席し、誕生した2期生の希望に燃える姿、そして1期生からいただいた温かい言葉の数々に勇気もらって、改めてこの仕事をさせていただいている幸せを実感し、やってみよう！という思いになりました。新澤先生のおっしゃっていた、「祝福のシャワー」をたくさん受けて、日本一幸せな妊婦です！（小貫）